

平成 22 年度 東北大学 医学系研究科および医学部
学位記授与式の式辞に代えて

2011 年 3 月 25 日

本日、東北大学医学系研究科および医学部を修了され、博士、修士、または学士の称号を得られた方々に、心からお慶びを申し上げます。

3 月 11 日に起きた未曾有の大震災により、私たち医学系研究科と医学部は大きな被害を受けました。近隣の地域では、続いて起った大津波により多くの方々がお亡くなりになり、また、さらに多くの方々が住んでいた家をなくされました。この場を借りて、改めて被災した方々にお見舞いを申し上げ、また、家族・友人を亡くされた方々に心からのお悔やみを申し上げます。このような事情ですので、伝統的な学位記授与式を行うことをあきらめざるを得ません。修了生の学業に対して、終始暖かいご指導を頂いた指導教員の方々、同僚や先輩・後輩の各位、さらに、学生生活を支えて頂いたご家族の皆様に参加して頂き、その前で感謝の気持ちを持って学位記を受け取って頂きたいという願いは、今年はかなえることはできませんでした。しかし、修了生諸君のたゆまぬ努力が結実して、本日を迎えることができましたことは、例年と変わらず、私の大きな喜びです。

昨今、我が国の学術研究の目指すべき方向として、「世界最高水準の研究の推進」「新しい学問の創造」「社会への貢献」の 3 本の柱があげられています。これらは、まさしく私たち研究科・医学部が取り組んでいる目標そのものです。東北地方の多くの病院は、私たちの先輩が地域の人々の健康を守るために設立したものです。いま、未曾有の大震災に直面し、困難を極める被災地で、私たちの先輩や同僚たちが献身的な医療活動を行っています。このような社会に対する責任感に溢れた貢献は、世界最高水準の研究推進と合わせて、私の大きな誇りとするところです。

近年、科学技術振興や大学改革の大きな旗印の下で、医学・生命科学研究領域においても、ともすれば医療技術開発や臨床応用の側面が強調されてきたこと

は否めません。しかし、私たちが本研究科・医学部で取り組み、そして修了生諸君とともに学んできたのは、「科学に取り組む姿勢」であり、また、「科学の精神」なのです。諸君は、本研究科・医学部において、不正を許さない医学者としての姿勢を学ぶとともに、謎と神秘に満ちた自然の法則をいかにして解き明かすのか、また、いかに最短距離で雑多な現象の陰に隠れた基本原理の解明にアプローチするのかに日夜腐心してきました。さらに、実験室や病棟で不断に直面する教科書やマニュアルにない事象に対して、科学者の目を持って、合理主義と実証主義で対応することを学びました。そして、批判精神を学び、既存の知識の壁を越えて、自由な発想能力を身につけることに邁進してきたのです。

本日、東北大学医学系研究科・医学部から学位を得られる修了生諸君とともに研鑽を積んだこと、また、現在、研究科・医学部に所属して、博士、修士、医師、看護師、検査技師、放射線技師などの称号を目指して日夜努力している学生諸君とともに学ぶことは、私たち東北大学医学系研究科教員にとって大きな誇りとするところです。本日学位を得て、研究科・医学部を旅立つ方々には、今後は東北大学の出身者として、研究あるいは臨床の場で、さらに修練を積み、才能を磨いて頂きたいと思います。その際には、いつも、本学を卒業するプライド、また、送り出した私たちの名譽を背負っていることを思い出して、困難な課題に直面しても、勇敢に立ち向かって欲しいと希望します。最後に、本日巣立っていく諸君の活躍と幸運をお祈りして、式辞にかわる言葉と致します。

東北大学 医学系研究科長・医学部長
山本雅之